

2 液型エポキシ樹脂塗料

# エポリートプラサフ

江戸川合成株式会社

## ○製品概要

エポリートプラサフは耐切削油性と防食性を最重点課題として設計された2液反応型防錆用プライマーサフェサーです。その硬化塗膜は耐薬品性、耐食性、耐水性、付着性に優れ、特に過酷な切削油に対する耐性において従来の塗料に見られない性能を発揮します。

## ○特徴

- ・ **密着性が優れている**  
アルミニウム、ステンレス等様々な金属素材に対して優秀な密着性を示します。
- ・ **防錆力が優れている**  
クロム等の有害な物質は一切使用しておりません。これに変わる低公害型防錆顔料を使用し、環境に配慮した設計となっております。
- ・ **耐切削油性が優れている**  
主剤に特殊な変性エポキシを使用し、ポリアミンによる三次元架橋をすることで他に類を見ない耐薬品性を発揮します。

## ○組成

主剤	特殊変性エポキシ樹脂 防錆顔料 着色顔料 体質顔料 添加剤 有機溶剤	硬化剤	変性ポリアミン 有機溶剤
----	---	-----	-----------------

## ○用途

鉄製品、アルミニウム製品、ステンレス製品、電気亜鉛メッキ処理鋼板、その他金属製品の下地用

## ○使用方法

- ・ 前処理  
塗装物は塗装前に十分な錆落とし、および脱脂を行ってください。
- ・ 攪拌  
顔料等が沈殿している場合がありますのでご使用前に、十分攪拌して下さい。
- ・ 混合  
塗料の配合比は 主剤:硬化剤:シンナー=4:1:1~1.5です。計量は重量比にて正確に行ってください。  
希釈は#320エポキシシンナーSW(春秋型)、S(夏型)、W(冬型)をそれぞれご使用の時期に合わせて選択してください。
- ・ ポットライフ  
2液反応型のためポットライフ(可使時間)が生じます。  
硬化剤と混合した塗料は5時間以内にご使用ください。
- ・ スプレー圧  
スプレー圧は小物2~3kg/cm<sup>2</sup>、大物4~5kg/cm<sup>2</sup>程度の圧で調整してください。
- ・ セッティング  
上塗りを行う場合塗装後30分以上常温にて放置してから、上塗りして下さい。
- ・ 乾燥  
指触乾燥        20°C × 5分  
硬化乾燥        20°C × 6~8時間  
強制乾燥        60°C~120°C × 30分  
ただし塗膜が耐薬品性等の諸耐性を発現するには約7日以上乾燥が必要です。
- ・ 上塗り塗装後の乾燥条件  
上塗り塗料指定の条件にて、乾燥して下さい。
- ・ 膜厚、塗り坪  
標準膜厚 30~40μ m

塗り坪は希釈済塗料で約200g/m<sup>2</sup>が目安です。

## ○品質性能

試験項目	試験方法		試験結果
付着性	クロスカットセロテープ剥離試験	SPCC-SD鋼板	100/100
	クロスカットセロテープ剥離試験	1050Pアルミ板	100/100
	クロスカットセロテープ剥離試験	SUS304ステンレス板	100/100
	クロスカットセロテープ剥離試験	ボンデ鋼板	100/100
描画試験	描画試験機使用	10mmφ 500g	◎
エリクセン	20mmφ 押し出し	5mm以上	◎
耐衝撃性	デュポン式衝撃試験機	1/4インチ500g50cm	◎
耐屈曲性	4mmφ	1秒/180°	◎
耐酸性	5%-HCl水溶液浸漬	200時間	異常なし
耐アルカリ性	5%-NaOH水溶液浸漬	200時間	異常なし
耐水性	水道水常温浸漬	6ヶ月	異常なし
耐油性	水溶性切削液浸漬(常温)	6ヶ月	異常なし
耐溶剤性	ラッカーシンナー	ウェスラビング30回往復	異常なし
耐塩水性	塩水噴霧試験機	5%塩水×98%×168時間	1mm≥
耐沸騰水性	98℃沸騰水浸漬	1時間	異常なし
上塗り適合性	2液型エポキシ樹脂塗料		100/100
	2液型ウレタン樹脂塗料		100/100

試験素材: SPCC鋼板      試験塗料: エポリートプラサフ 505 ブルー

乾燥条件: 常温×1週間

## ○標準色

- ・301 グレー      16kg
- ・505 ブルー      16kg

・802 ブラック	16kg
・エポリートプラサフ 硬化剤(REACH 対応)	4kg

## ○注意事項

- ・ 塗装作業前にMSDSをよく読んで正しい使い方をしてください。
- ・ 2液反応型のためポットライフ(可使用時間)が生じます。ポットライフ中にご使用可能な量を配合し、ポットライフを過ぎたものは廃棄してください。
- ・ 指定以外のシンナーを使用しますと、混合は可能ですが経時変化により顔料と樹脂が分離し、所定の性能が発現しなくなります。
- ・ 硬化塗膜は非常に耐薬品性に優れておりますが、未硬化状態の塗膜は表面の活性度が高い状態にあります。そのため乾燥雰囲気中の酸やアルカリ成分(鋼材処理液等)と反応し、変色する場合がありますので十分ご注意ください。
- ・ 塗料の種類によっては相間付着が十分でない場合がありますので、ご使用の際には必ず事前に確認してください。